

## Photo exhibition 『ふたり』

二つの時間、それぞれの人生に、それぞれの生活。

本展示「ふたり」のタイトルには、生活を営み、他者に触れ、命と関わり、生み出される接点と記憶の儚さの意を込めた。二つの時間が織りなし、その時々心の移ろいを一つの作品として仕上げる。音楽ディレクターを迎え、十年来の友人である二人の作品が一つの展示を作り上げた。

2020年12月12日

## 外山舞 - 音楽ディレクター

フランス、パリ国立高等音楽院、サクソフォン科、室内楽科、即興科を経て、仏国家音楽教員免許を取得し後進の指導にあたる傍ら、ヨーロッパを中心に音楽及び写真家活動を並行して活動している。

<https://www.maitoyama.com>

## Sunny Lee - 写真

東京の下町で生まれ育つ。2017年から写真を学び始める。自身の心の穴を埋めるように日々の何気ない風景や旅先の景色を世界から切り撮っている。

撮りためた写真を、今回初めて展示する。

<https://instagram.com/inti.lee>

## Shin Ikegami - 写真・ディレクション

東京都小金井市に生まれ育つ。2017年より展示を中心に作家活動を行う。一年を通し吉祥寺にある井の頭恩賜公園で、光と影が描きだす季節の移ろいを日々撮影し、ホームページに随時公開中。

<https://shinikegami.com/work>

## 個展

2019年6月 『それでも、最後に相応しい日なんてないと思う。』 - PICTORICO SHOP&GALLERY

<https://kyoto-muse.jp/news/10347>

展示作品はご購入いただけます。

A4 プリント

プリントのみ 28,000 円

プリント部分 205\*274mm 実寸 243\*303mm

額装(化粧箱付き)は 40,000 円

A3+ プリント

プリントのみ 38,000 円

プリント部分 325\*432mm 実寸 406\*508mm

額装(化粧箱付き)は 52,000 円

送料別

その他ご相談ください。

## Sunny Lee - 写真

緊急事態宣言の中、自身で初めての展示をさせていただくことになりました。  
展示自体を決意した時には、こんな事態はもちろん想像だにしていませんでした。  
パンテミックなんて、映画の中か教科書の中のお話。まさか自分の人生に関わってくるとは。

この状況で自分ができることなんて限られていて。  
私は、この中でも普通に暮らし「生きる」事にしました。  
自身の感染を防ぐ以外は努めて普通の営みを続ける。  
今回の展示も、ほとんどが昨年撮った作品群となります。  
是非、写真が切り取る日常を、Shin Ikegamiさんと織りなす写真展という作品を通じて、楽しんでいただけたら幸いです。

～写真展「ふたり」によせて～

「生きる」とは何かと世界中の誰もが強く考えたであろう2020年。私は最愛の父と、どのような形でお別れをするか、考えていました。

生きる=自分の価値とは何か、いくら考えても自分の中に答えは無く、他者に負けないことだけを目標に、ガムシヤラに生きる。  
そんな幼い私を、養父はただ支え、無条件で応援してくれた。  
その頃から人生は、徐々に楽しむべきものになった。

別れはいつも突然で、あっけないほど簡単に、養父は灰になってしまった。  
そして昨年、コロナの外出自粛要請が解けた束の間に、海で見送った。  
釣り人だった養父の意思を尊重した。  
気がつけば、亡くなって既に9か月が経っていた。

一連の出来事の中、私はひたすらに写真を撮り続けた。  
父が気づかせてくれたように、私が「生きる」世界はこんなにも美しく、素晴らしく、私の心を受け止めてくれた。

2020. 2. 9 Sunny Lee

## Shin ikegami - 写真・ディレクション

本日はご多忙の折にもかかわらず、また抑制的な社会行動を求められる情勢の中、ご来場頂きまして、ありがとうございます。ご来場頂きました皆さまや昨年来より金銭的にも精神的にも支援して頂いた皆さまに深く感謝を申し上げます。

特に本個展を共に作り上げた李純女さんとピクトリコのスタッフの皆さまにはお世話になったこと、結果的には二度目の緊急事態宣言が延長され、諸般情勢の中で開催となり、会期時間は23%の削減となりましたが、最後まで難しい判断が重なり開催に漕ぎ着けたこと、昨年のような延期や中止を回避できたこと、社会情勢を深く理解した上でこのような機会を実行したこと、あわせてご理解頂きたくお願い申し上げます。

去年は、去年は、とにかく、ただひたすら、苦しかった。

ただそれだけで、文化支援から漏れたことも、展示が延期や中止になったことも、もう少しで呑み込みそうだ。だけど、だけど、簡単に消え去ってしまうことにはいまだに慣れない。

私は、チャンスがあれば、それを掴み離さず、今後も何度も何度も作り続け、展示をしたい。また、表現の場に戻って来たいと思います。

2021/02/09 搬入設営後 - shin ikegami.